Global Mapping Newsletter

第16号

氷結した大陸の地図作成

測地、地理情報及び南極数値データベースに関するSCARワーキンググループの簡単な経緯

南極研究科学委員会(SCAR)は1958年2月にハーグで設立されました。本委員会は、1957年～58年のIGY(国際地球観測年)に南極で活動する12ヶ国の科学研究を調整するため国際学術連合(ICSU)により設立された南極研究特別委員会から発展しました。の主な目的は、南極で研究活動を行うすべての科学者のために彼らの現地調査活動を検討し南極条約加盟国間の科学研究の協力と共同作業を促進するためのフォーラムを提供することです。SCARはまた、南極条約システムに対して科学的な助言を行うという重要な役割も持っています。

SCARの測量、地図作成やGISの活動は、測地及び地理情報に関するワーキンググループ - WG-GGI で調整されます。WG-GGIの起源は、当時地図作成として知られた地質、氷河、地形を学問分野とするワーキンググループの一部で、1958年の第1回SCAR会合にまでさかのぼることができます。1960年9月に地図作成に関する常置ワーキンググループが設立され、翌年その名称が測地及び地図成に関するワーキンググループに変更されました。1998年に、グループの名称が現在の活動をより良く反映するために、測地及び地理情報に変更されました。

第1回のSCAR会合以来、(最も広い意味での)地図作成は南極大陸の作戦的科学的両面で非常に重要であると確認されました。

南極数値データベース(ADD)プロジェクトは、1990年6月に英国南極調査所(BAS)、スコット極地研究所(SPRI)と世界環境保全モニタリングセンター(WCMC)から構成されるケンブリッジを地盤とするコンソーシアムにより提案されました。この新規プロジェクトの目的は、最も適切な入手可能な地図情報源から南極大陸の継ぎ目のない数値地図を作成することで、時間的な制限のために20万分の1/25万分の1より大縮尺のソースデータの利用はすべて除外されました。(1992年に完成し、1993年にCD-ROMで発行された)ADDバージョン1.0は、研究利用やロジスティック支援活動の範囲で国際的な南極社会に対して共通の地理的枠組みを提供しました。本CDには多くの縮尺で一般化されたデータが含まれ、データベースの内容に関する詳細情報と、バージョン1.0の作成に利用された原資料の完全な出版目録を示す参照マニュアルが添えられています。本データベースの著作権はSCARが保有します。

本プロジェクトに対して数カ国が数値データを提供しましたが、大量のデータの確保とデータ管理はケンブリッジで行われました。英国でのバージョン1.0の取り組みは主にBASにより資金が提供され、さらに18ヶ月の期間はブリティッシュ・ペトロリアム社(BP)により資金が提供されました。その他の貢献国は、自国の国家地図作成機関や南極研究機関を通して自国のデータ確保を支援しました。

BASや他の場所で行われるGISの利用のほとんどがPCからワークステーション環境に大きく変化したことにより、ADDの新しいバージョン計画は斬新的に変化しました。すなわち、新旧バージョン間の主な違いは、ADDバージョン2.0がワークステーションARC/INFOで維持、整備されたことです。ADDバージョン2.0は、SCARに代りBASにより資金が全額提供され、1998年に(ダウンロード可能なフォーマットで)公開されました。インターネットでこのデータを入手するには、まず、あなたの氏名と機関名をBASに登録しなければなりません。(データを非営利目的で入手する場合は無料です。)

URLは下記です。

<http://www.nbs.ac.uk/public/magic/add_main.html>

SCARが資金提供したADDバージョン3.0の取り組みがBASにおいて進行中です。(オハイオ州のバード極地研究センターがERS-1衛星の高度測定法から作成したDEMから最初に得たものや、ADDバージョン1.0からの)南極大陸の氷床の改善された標高など、新しいデータや、主な氷前線の変更された位置がバージョン3.0に含まれています。新しい一般化したデータも作成中です。特に100万分の1のデータが地球地図プロジェクトのために作成されています。

JICA環境地図作成技術コースについて

世界各地から人々が参加する平成11年度環境地図作成技術集団研修コースは、研修の終了が近づいています。終了というより開始というほうが適当でしょう。すなわち私たちは、今日盛んに論じられている問題である地球環境への効果的な利用のために、国土地理院から知識と技術を身につけた後、地球地図の伝授や作成を開始するからです。私たちは新しいミレミアムの入り口に立っており、この最新の技術と構想である地球地図は、増大する環境問題から私たちの愛する地球を救うための施策において、国際社会を確実に支援するでしょう。

研修は、様々な講義や国土地理院の職員の積極的な参加による実地研修により非常に意義深いものになりました。環境をより身近にとらえるために、研修員は日本各地での屋外研究の機会がありました。

最後に、私たちがこの新しい構想である地球地図を学び、世界で一番美しい国のひとつである日本を見、日本の人々やその生活様式や文化を知る手助けとなった本コースを提供してくれた国際協力事業団の親切な申し出に私たちは感謝しなければ完全とはいえないでしょう。

つくば、1999年12月10日

シャマダス・チャウドゥリ

インドプロジェクト管理機構共同主幹

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

" * "マークの会合は後日確認されます。

2000年

- 3月9日～10日、南アフリカ、ケープタウン

第10回ISO/TC211本会議

- 3月13日～15日、南アフリカ、ケープタウン

第4回GSDI会議

- 3月16日、南アフリカ、ケープタウン

第7回ISCGM会合

- 3月27日～31日、南アフリカ、ケープタウン

第28回環境リモートセンシング国際シンポジウム

- 4月11日～14日、マレーシア、クアラルンプール

第15回UNRCCAP

- 7月14日～26日、オランダ、アムステルダム

第19回ISPRS会議

- 9月7日～8日、米国、レストン

第11回ISO/TC211本会議

2001年

- 3月～4月、ポルトガル*

第12回ISO/TC211本会議

- 4月、コロンビア

第5回GSDI会議

- 4月、コロンビア

第8回ISCGM会合*

地球地図ニューズレター目次 に戻る

編集、発行：建設省国土地理院

地球地図国際運営委員会事務局

連　絡　先：〒305-0811　茨城県つくば市北郷１番

TEL: 0298-64-6910

FAX: 0298-64-1804

E-mail: iscgmsec@graph.gsi-mc.go.jp